



# 「You can do it あそび」 in 東京 研究会報告

編集発行 知能工作研究所  
〒242-0006 大和市青林岡 2-18-25  
TEL046-277-5654 Fax046-277-5657

「出来た、完成だ!」「持って帰っていい?」「もっとやりたい!」「やめたくない!」の声が聞かれる授業…。道具等を使って、自分で作った作品を使い、知能の課題に積極的に取り組むことから生まれる、驚くほどの意欲・集中力。そして、達成感と自信に満ちた顔。嬉しくて、きっと家庭での会話も弾む事だろう。そんな、知能工作「You can do it 遊び」の授業研究会が、今年も東京の松本幼稚園で開かれた。今回は特に、来年度からの新作教材を、園の先生が指導するという新しい形の公開保育。その研究会を時系列の報告する。

※平成 29 年 5 月 20 日 (土) 9:00 快晴

参加者全員が起立をして、互いに挨拶を交わして開始のゴング。園長先生から、子どもの動き、目の輝き、集中力、導入教材、指示の仕方等、是非明日からの保育に役に立つような研究会にして欲しいとの激励(叱咤)があり、次に、今日の教材「輪ゴムかけ遊び」教材のねらい、考え方などが製作者側から説明された。

※授業研究「輪ゴムかけ遊び」10:00 ~ 指導 飯島 美菜

今回も、園の先生や参観者が、授業をじっくり参観できるようにという園の配慮で、年長クラス 百合組だけの登園。クラス 27 名中 25 名の出席で始まった。

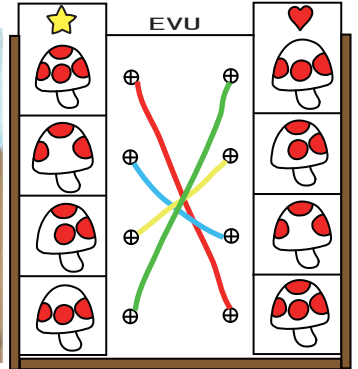
この教材は、盤作りを加えると図形 V、記号 S、概念 M の 3 つの袋に分かれていて、(何回でも遊べるように作られた画期的教材) 本時は「盤作りと概念の遊び」。

①盤作り-8本のネジくぎを、盤にねじこみ完成させる。

この時期で、技術的に困難ではないかと思われたが、道具を使う珍しさか、意欲的によく集中して盤を完成させていた。(席から離れたり、取り組まない子はいない。)

②課題も「概念の分類を集中思考する」という知能因子で、ピッタリ正しく分けなければならない問題だが、正しく分類していた。指導者も全体をよく把握していて、アップテンポの生き生きとした授業であった。(感想文にも多い)

新作「輪ゴムかけ遊び」



盤を完成させネジを入れる。 同じ形を輪ゴムで結んで遊ぶ。

※「工作教材の発展的使用法」11:00 ~ 大野正樹 園長

工作教材の発展として考えられるものに、パズルがある。そのパズルを解く場合には、いろいろな知能因子が必要となる。図形的な正方形のパズル、概念的な言葉・動作・コミュニケーション遊びや文章作り。記号としては O X 遊び等、それぞれ例をあげて説明があった。大切なのは、授業と同じで、見通しを立てる事、どこが難しいか考え、自分でやってみる事だそうだ。

※新しい教材のねらい 13:00 ~ 知能工作 和田

「You can do it 遊び」は、教材を自宅に持ち帰り、父母と一緒に遊べる教材(時間の共有)を目指している。過程だけでなく、出来るように育てるのが教育であり、過干渉を恐れるのではなく、教材を間に親子で遊ぶ事が、学力には重要な要素となると考えている。

<授業の感想文>最初は、かなづちやドライバーを使うと聞いて、うまく使って作る事が出来るかなあと思っていました。子どもたちはとても手先が器用で、くぎを打っていた事にびっくりしました。担任の先生も子どもたち一人一人に丁寧な言葉かけをリズムよくしていて、とても楽しんで知能工作に取り組んでいるなあと思いました。子どもたちが楽しくあきずにやる言葉かけが大事で、これからの自分の参考にしていきたいと思っています。

H.S

※ 大野敏子先生、新園長先生のもと、今年も研究会を開くことが出来ました。感謝しています。文責 知能工作研究所 和田